

先進事例

全国中央会では、中小企業や中小企業組合関係者が、新たな共同事業の実施や組織体制の見直し等を行う際の参考になるよう、都道府県中央会と連携し、毎年テーマを決めて共同事業等に先進的に取り組んでいる組合事例を収集している。昭和57年度より事業がスタートし、これまでに収録した組合事例は

【地域連携による新たな事業展開】

稲田石材商工業協同組合

— 行政と組合の密な連携による地場産業の振興発展 —

地場産業である稲田石の積極利用と、稲田石の資料館「石の百年館」再活用による観光資源の強化で、組合員の経営環境改善と地域の活性化に取り組む。

住 所	(〒309-1635) 茨城県笠間市稲田2331-6	U R L	http://www.ibarakiken.or.jp/inada/
電 話 番 号	0296-74-2049	F A X 番 号	0296-74-3797
設 立	昭和22年7月	出 資 金	8,168千円
組 織 形 態	産地組合	地 区	茨城県笠間市
主 な 業 種	石材採石・販売・加工・工事業	組 合 員	60人
組合専従者	2人		

■背景と目的

笠間地区一帯を産地とする稲田石は、笠間焼と並び笠間市を代表する地場産業であるが、石材業界は、市場の縮小や中国産石材などの安価な海外製品の流入等で厳しい経営環境が続いている。そのような中で、笠間市では地場産業の振興に特に力を注いでおり、地域の石材業者で組織される当組合に対する様々な支援・施策によって、地域社会の活性化を図っている。

■事業・活動の内容

事業内容は、①稲田みかげ石事業者支援事業、②稲田みかげ石PR事業、③観光交流センター「石の百年館」整備事業の3つがあげられる。

- ①市を代表する観光地「笠間稲荷神社」周辺の景観整備事業に伴い、敷石製作を組合で受注(平成25年度)。歩道だけでなく車道にまで稲田石を用いた稀有な例である。
- ②平成17年度から実施している組合主催の展示会「稲田ストーンエキシビション」について、開催場所の提供・広告宣伝等で相互に協力。出展された作品の中には、笠間市が購入し市内に設置・展示されているものもあり、補助金のみには依らない具体的な支援が行われている。
- ③「石の百年館」は、元は組合員が所有・運営していた施設であるが、閉館・取り壊しが決定し、市が一部寄贈を受け平成26年3月に移築開館した。管理運営は、市からの委託を受け組合で行っている。同施設は、稲田石にまつわる貴重な資料や水晶・鉱物等が解説・展示されているほか、駅前という立地を生かし、観光案内所としての役割も新たに担っている。

■成 果

笠間市が稲田石を積極的に利用することで、組合員の売上増加に寄与するとともに、稲田石の産地として同地域の景観整備が進み、観光地としての魅力向上が果たされている。特に「笠間稲荷」周辺の敷石工事は、車道に稲田石を用いることで新たな利用価値を生み出しており、今後の需要拡大が見込まれる。展示会についても、年々参加者が増加し組合を代表するイベントとなり、市の協力は不可欠である。

また、「石の百年館」という新たなシンボルが誕生したことで、稲田石の更なる振興発展が図られるだけでなく、高齢化が進み活気が失われつつあった駅前周辺地域の観光拠点として、地域社会の活性化が進むことが期待される。



笠間稲荷門前通りの石畳



石の百年館